120th Anniversary
東京聖三一教会
Holy Trinity Church,Tokyo
120周年

聖鐘

日本聖公会東京聖三一教会
〒155－0032　東京都世田谷区代沢2－10－11
TEL　3421－3646　FAX　3414－9023
URL　trinity.web.infoseek.co.jp
牧師　司祭　長谷川正昭

家族の肖像

司祭ヨナタン　長谷川正昭

「二人または三人が私の名によって集まるところには私もその中にいるのである。」（マタイ18、20）このみ言葉は家族にも教会にも当てはまります。「家族的」という言い方は、注意が必要です。中小企業の社長が「わが社は非常に家族的にやっています」などと得意になって言う場合には、社員が大抵苦労させられている場合が多いようです。

家族団欒というのは明治時代の文明開化の産物だそうです。それまでは家父長以下、序列化された家族が箱膳を前にして黙々として食事をするという形が守られてきました。

しかし、西洋文化を取り入れるために、序列を廃し、全員が団欒しながら食事を摂るという形に急激に生活様式が変わりました。この時、卓袱台というのが各家庭に用いられるようになり、箱膳は姿を消しました。しかし、武家社会のしきたりは現在でも生きています。韓国の高校の先生が日韓交流の席上、日本の高校生たちが先生とかリーダーが「いただきます」と声をかけないと皆が決して箸をつけようとしないので、日本は未だに武家社会だと驚いたという話を聞いたことがあります。

私は家族と宗教は対立するものだと考えてきました。それは両者の原理が相反するもので、家族は血縁集団であり、自己保存、種族保存を目的とするが、宗教は擬似血縁集団であり、自己犠牲、自己放棄を理想とするからです。

この原理は不変ですが、一方では家族もまた他人であり、たとえ血縁によって結ばれた親子兄妹でも他者性というか、他人同士という側面があることを見失ってはならないと思います。

早い話、家族だから馴れ合いやもたれ合いが許されるかというとそんなことはないわけで、家族だからこそお互いの自我が衝突して大喧嘩になることもあるのです。

ここに私は家族の意味が明らかになるポイントがあると思います。言いかえれば、家族というのは宗教性の入り口でもあり、神との出会いが最も鮮烈になされる可能性のある場でもあるということです。

そして、家族であれ他人であれ人間を理解することがいかに難しいか、命がけにならなければならないこともありうることがわかってきます。私たちに希望とか救いがあるとすれば、そういうところにしかありません。それは普通に言う「わかる」などというレベルを越えていますし、頭でわかるのではなく、何よりも自分の存在を賭けなければならないのです。

この事は家族を持たずに一人暮らしをしている人にもあてはまります。聖パウロは独身者の信仰を高く評価しました。一人暮らしの人も心の中に家族を抱いていますから事情はまったく同じなのです。

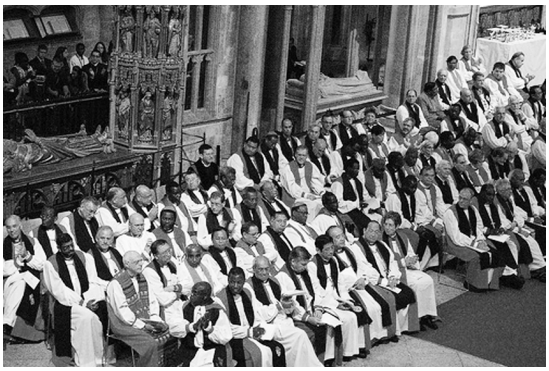
ランベス会議に参加して

管区事務所・渉外主事
八幡　眞也

２００８年８月英国カンタベリー市で開催されたランベス会議に通訳として参加した際の、私なりに感じたことを報告致します。

・　・　・　・　・

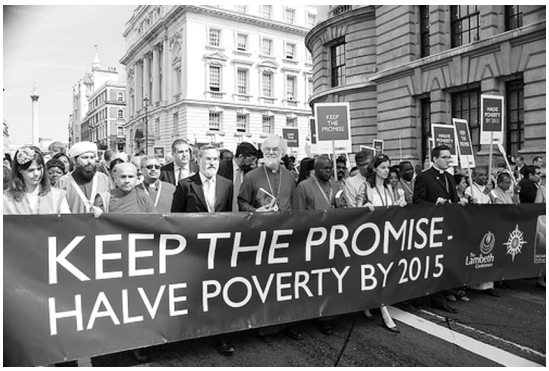
ランベス会議(以下ＬＢＣ)は10年に二度開催され世界中の聖公会の現役主教全員がカンタベリー大主教の招待により参加する会議です。



居並ぶ各国の主教たち

今回はカンタベリー市のケント大学のキャンパスを貸り切って7月16日から8月4日まで開催されました。全世界から600名以上の主教とほぼ同数の配偶者が集まり、サポートするスタッフを含め、恐らく１５００名から２０００名近くの人が集まっていたと思います。招待された方々の中には70名近い超教派の聖職者がいて、カンタベリー大主教(ＡＢＣと約す)の超教派に対する考え方、又、他宗教への配慮が感じられました。

この会議の成果に対しては、各主教が期待をどう持っているかにより評価が分かれると思います。「人間の性」や女性司祭按主の問題を協議・決議して結論付けたいと思っていた主教は期待を裏切られたと感じたと思います。この会議ではこの様な決議をする機会は当初からプログラムには含まれていなかったようです。聖書研究や中規模のディスカッショングループ「インダバ」等に重点が置かれ、背景の異なる国・教会の主教達と交わる事が出来、お互いをよりよく理解できた事を大切にし、貴重な経験であったと大きく成果を評価する主教も数多くおられたと思います。典型的な一日のプログラムはこのようなものでした。7時15分聖餐式、8時15分朝食、9時15分聖書研究(ヨハネによる福音書)、11時インダバに於ける話し合い、1時昼食、2時30分自由参加の勉強会或いは全体会議、5時45分夕の礼拝、7時夕食、8時15分夜のプログラム(全体会議やゲストスピーカーによる講演会)、他に6時30分朝の祈り、9時15分夜の祈りなどです。



ロンドン市内をデモ行進する参加者

英語が母国語でない国からの主教の為に主要な外国語と英語の通訳が70名ほど参加していました。殆どの通訳者は英国在住で、この為にカンタベリーに約3週間缶詰で活躍していました。日本語通訳者は日本から4名(西原司祭、市原司祭、荒木執事、私)と英国在住5名で主教9名とお連れ合い4名のお世話をさせて頂きました。各国の通訳者の語学能力はとても優秀で、人間的にも素晴らしい人材です。

7月24日は特別な日でカンタベリー市からバス30台以上に乗車し、約2時間かけてロンドン市内に行き、２０１５年までに世界中の飢餓を半減する事を誓ってロンドン市内を行進しました。その後カンタベリー主教の本拠地ランベス宮殿でブラウン首相の同じ様な話題のスピーチを聞き、１５００名近い参加者がいっせいに昼食。その後バッキンガム宮殿で英国女王主催のガーデンパーティーがあり、とても忙しい一日でした。

各国の青年達が(大体30歳までの男女)約50名参加し、スタッフ(スチュワード)として特に会場整理に関わっていました。会議の終盤にもたれた全参加者とスチュワードとの会話で、聖公会の将来を担って行く彼らの決意を聞いた時は聖公会の将来が明るい事を感じました。

聖堂改修工事が完了しました

メンテナス担当委員　森田　信也

6月2日より開始した聖堂改修工事が7月6日の日野原重明先生講演会を前になんとか完了しました。ほこりや汚れで全体的に薄暗くなってしまった聖堂を明るい雰囲気にすることと、祭壇の段差をなくし、より広い祭壇スペースを確保することが目的でした。

空洞の見つかったコンクリート床

「聖堂のためにという」多額の指定献金をいただいたことをきっかけに、120周年記念の献金を皆さんから募りつつ着工しました。ところが着工後、保管図面と異なりあるはずの祭壇の中のコンクリートがなく空洞であったり、天井を塗装しようとしたところアスベストを含む表面膜が剥離しかけたりと予期しないことが起きました。この結果、その対策工事に追加の支出をすることになりましたし、工事スケジュールも狂ってしまい主日の礼拝にも大きな影響が出てしまいました。また、予定していなかったコンクリート打設により、1階の和室に濁水が漏れたりといろいろなことが起きました。いっぽうアスベストについては昨年の測定では無害であることが確認されていましたが、剥離しかかっていることが分かり、今回塗装で塗り固めたことにより不安が一層少なくなりました。

教会の聖堂は築50年近くが経過し、外壁や設備などあちこちに不具合が生じていますが、手持ちの資金では抜本的な全体改修は不可能な状況です。今回は従来大切にしてきたイメージを変えないことを前提に信徒だけでなく、結婚式などを含めお迎えする外部の方に向けても、教会の中心である明るい聖堂をアピールすることを優先しました。

引き続きトイレ改修などの必要性もあり、記念献金を継続して募っていますので、よろしくお願いします。

最後になりましたが、難しい工事に誠心誠意取り組んでいただいた箕輪建設さんの社長さん親子に感謝したいと思います。

バザーへのお願い

バザー委員長　千村雅信

今年もバザーまであと数週間となりました。夏の早い時期から2回に分けて献品のお願いを出したため献品の出足は早かったのですが、現在少しペースダウンといった状態です。10月に入ってからの追い込みに期待をかけています。

献品に対応する作業は順調に進んでいますが、食堂関係の人員確保が進んでいません。今まで実行部隊であった方達の高齢化が原因の一つでもありますが、教会でこの頃お目にかかれない方達が増えたのが1番のようです。バザー本部としてはこの多くの方達にも是非参加していただきたいと考え、参加をお誘いする葉書を出しています。皆さんも身近でこの方はと思われる方達がいらっしゃったなら是非お誘いください。

今年のテーマは「みんなとともに」です。一人でも多くの方達（近隣の方を含む）が教会の働きに力を貸していただけるよう工夫をします。今までに増して広報に工夫をする必要があります。まだバザー当日まで数週間ありますので、バザーについて希望、提案などありましたらどしどしお申出ください。

まじわり

「私の教会みーつけた」

柴田早智子さん

ある日の主日礼拝。聖歌隊のメンバーに見知らぬ女性の顔が。礼拝後も教会員と快活に談笑する姿があった。筆者も話掛けた。率直で飾り気のない会話が心地良かった。気さくな人柄というのが第一印象。

柴田早智子さん

仏壇も神棚もあるごく普通の家庭で育った早智子さんは、母親にバスの定期券を持たせられて一人で山梨英和幼稚園に通った。「毎日の聖書のお話とお祈りが大好きでした。それが楽しみで日曜日も幼稚園に通いました。神さまに喜ばれる人になりなさい、との教えが今でも心に染み付いています」。早智子さんはこの時初めて神と出会ったと言えよう。

その後、4人の子宝に恵まれ、福井聖三教会幼稚園に通わせた。自分も聖書勉強会にいそしんだ。そしてこの4月、聖公会のHPで東京聖三教会を見つけた。場所が近かくて聖歌隊もあるという。「嬉しくなって早速、教会の門をくぐったというわけです。ようやく自分の教会を見付けた思いでした」。

嫁ぎ先が動物病院だったこともあり、しばらく獣医師として働いたが、不縁となり現在はいわゆるシングルマザー。長男・次男は社会人、長女・次女は音楽大学生。4人とも英国で生活している。

音楽に耳を傾ける日が多い。とりわけクラシック愛好者だがビートルズや70'Sなども聴く。子供たちも母親の影響からかクラシックが好きになったという。「初めての教会で不安もあり、お仲間に入るのにはいささか勇気がいりました。しかし、長谷川先生ご夫妻はじめ信徒の皆さんが暖かく声を掛けてくださったお陰で、最初から溶け込むことが出来ました。感謝です」。現在、杉並区宮前で独り暮らし。現在は高齢者介護の奉仕活動をしながら福祉の仕事を天職と思い、続けているという。

現在洗礼準備をされています。

（編集子）

信徒の集い

砂田郁郎

山手グループ（聖十字教会、聖愛教会、聖マーガレット教会）「信徒の集い」が8月31日(日)午後2時から聖三教会で催されました。6月に開催予定だったものが聖三の都合（120周年講演等）でこの日になり、真夏の月末でもあり各教会の調整が心配されましたが、参加者は約90名、まあまあの状況でした。

という盲導犬の物語で、笑いあり、そして涙という大人も子供も楽しめる心温まる映画でした。この映画のプロデュースをした原克子さんから制作のエピソード等のお話があり楽しい時間を過ごしました。

4時からは長谷川司祭の司式で夕の礼拝を行い、各教会がサーバー、日課の朗読を分担し、山手グループ4教会の信徒が共に礼拝を捧げました。当日の信施はエリザベス・サンダースホームに捧げられました。

第二部は交流会、毎年夏の最後の土曜日に開いているファミリーパーティーをこの日に変更して行いました。いつものようにバーベキュー、焼き魚、焼きそば、そして沢山の飲み物、最後は夏のお約束のかき氷とフルコースを堪能しました。各教会からの参加者紹介に続き「聖三ハイビスカス女性合唱団」の合唱。さらに東さんのギター伴奏で楽しく歌い大成功の「信徒の集い」でした。

他教会の方から、聖三独特の楽しい教会家族とパワーを羨ましいと言われました。皆様のご協力に感謝です。

新しい名簿作成に当たって

総務担当　千村雅信

春から始めた今回の名簿改訂作業は、個人情報法の施行と教会信徒間の連絡網が十分に働かなくなった事が要因にあります。個人情報法は昨今の流れの中で良くも悪くも厳しく守らなければなりません。教会としても個人の情報に関しては注意深く扱わなければならないのです。そしてこの名簿の公開には格別の注意が求められています。巷では名簿は高値で取引され、大変な迷惑を受ける事態になることもあります。他教会でも名簿に関しては厳重に管理をしているようで、信徒には配布しない教会も存在します。これらのことを勘案して、改訂名簿は今までのように全員に配布するのではなく希望される方だけにお渡しすることとなりました。又、改訂名簿にはナンバリングをして紛失に備えます。皆様のご理解をお願いいたします。

もう一つの要因とは、教会からの至急なお知らせが届かないと言うことが起きている実態があります。原因は今まで至急な事態が起きると婦人会、壮年会、エルの会等の電話連絡網で殆どの連絡が行き渡りましたが現在は難しい状態になっています。これをカバーすべくファックスでの連絡をしていましたが、今までの名簿ではファックス番号の登録が大変少なく、又不正確であったため連絡が届かないと言うことが多く発生しました。改訂名簿では利用者の増えたファックスとインターネットのメールを活用して一人でも多くの方に連絡が届くようにと考えました。

改訂名簿はすべてパソコンで管理されデータ化してあります。ですから変更が容易に出来ますので次回からは1年に1度の改訂作業などは大変楽になる予定です。名簿本体も必要なときにすぐ改訂できるように、従来のように製本はしないで簡易な作りにする事になりました。

信徒の皆さんは住所や電話番号が変更されたとき、至急長谷川司祭に連絡をお願いします。その都度新データを入力する必要がありますので皆様よろしくお願いいたします。

200人超の聴衆で聖堂が埋まる

日野原重明氏講演会

三教会は7月6日午後2時から聖露加国際病院理事長・名誉院長の日野原重明師を講師に招き、「心の癒しと身体の健康」と題して講演会を開いた。この講演会は三教会創立120周年記念行事の一環として開催したもの。

日野原講師は齢97歳の高齢にもかかわらず自ら結成した高齢者に向けた「新老人の会」会長として自立、世界平和、自然に感謝などの目標を掲げて様々な活動を展開している文化勲章受賞者。

講演会に先立ち、信徒による教会近隣へのピラ配り、立て看板、ポスターなどでPR活動を積極的に行った。この結果、講演会当日はおよそ200人を超える一般聴衆が聖堂を埋め、予想を超える盛会となった。「普段の就寝姿勢は、うつぶせに寝ると自然と腹式呼吸となるので健康に良い」といったユニークな健康法に聴衆は熱心に耳を傾けていた。

日野原講師は講演終了後、階下ホールで開いた歓迎茶話会に臨み、日野原講師自身の作詞・作曲歌を教会員全員が唄う歌声に終始ご機嫌で耳を傾けてくれた。

訃報

ステパノ田瀬幸男兄
8月26日に逝去　享年78歳。

シルビア内野芳姉
9月21日に逝去　享年90歳。

ご冥福をお祈り申し上げます。

リレートーク

渡嘉敷島にて

森田麻里子

6月20日～23日「沖縄の旅」に参加しました。テーマは「命どう宝～隠された真実―教科書検定問題から見る」でした。07年3月文部科学省が08年度用高校歴史教科書検定で沖縄戦「集団自決」に関して「軍が関与した」という記述の削除・修正の検定意見をつけました。沖縄戦の真実が歪まれる事への怒りが広がり、昨年9月29日検定意見撤回を求める沖縄県民大会に、11万人が参加しました。

1945年3月26日慶良間諸島に米軍が上陸し、約600人が「集団自決」の犠牲になりました。「証言沖縄『集団自決』慶良間諸島で何があったか」(岩波新書)には生き残った方々の慟哭が聞こえます。「皇民化教育が人々に死を覚悟させ、日本軍の命令が死を選択させた。」と金城重明さんの証言が載っています。息をのむ凄惨な証言です。「軍官民共生共死」という日本軍の方針が住民を「集団自決」に追い込みました。「集団自決」とは「強制集団死」です。

6月20日私は一人で「集団自決」のあった渡嘉敷島に渡り、「集団自決跡地」碑に行き、幼子を手にかけた親の苦しみを思い、魂の平安をお祈りしました。裏手の谷あいに降りると、樹木がうっそうとし、人々の悲鳴がいまだに留まっているようでした。不意に涙がこぼれ、「皆さんの苦しみを私は忘れません。」と言葉が出てきました。私の声に呼応するかのように、谷間からオオゴマダラ蝶が飛翔してきました。

その日の夜沖縄教区センターで沖縄戦研究者吉浜忍さんの「沖縄の『記憶』をどう伝えるか」という基調講演があり、「沖縄教区センターのある浦添市は住民犠牲が多かった土地です。」と話されました。沖縄戦の記憶を継承し、他教区の信徒と共に祈り、考える「沖縄の旅」を担当して下さる沖縄教区の働きは尊いです。

教区フェスティバル

今年の教区フェスティバルは9月23日立教女学院で「あなたとともに」というタイトルで開かれました。説教者はソウル教区のパウロ金根祥(キムグンサン)後継主教でした。気迫のこもった記憶に残る説教でした。

熱演する教役者合唱団

礼拝後のイベントでは3分間音楽会が開かれ、各教会から子供のグループや、おば様方のフラダンスなどが合計20組出演してとても盛り上がりました。中でも教役者合唱団が楽しいパフォーマンスを披露して一際喝采を浴びました。

教会の記録を保存しています

今年、事務所の戸棚の中にたまった記録や備品を何年ぶりかで整理しました。不要になった沢山の物を処分しましたが、毎年撮影しているイースターの全員での記念写真や敬老会の写真など、記録として残しておきたい写真が保存されていないことが分かりました。

聖鐘の前身である湖畔はごく初期からの物が保存されているので、毎年記念として撮影しているイースターと敬老会の写真も保存用に整理したいと考えています。現在イースターの写真は1990年からの物は手に入りましたが、それ以前の物がありません。お持ちの方はコピーをとりたいので是非お知らせください。敬老会の写真は2002年の物からは保存されています。

皆さんにお願いがあります。ちょっと古い写真を見ていただき、教会で撮影した全員写真など有りましたら是非お知らせください。クリスマスやキャンプでの写真も歓迎です。発見された折は千村雅信までお知らせをお願いします。

教会委員会議事録抜粋2008年4月～7月

<4月>

・創立120周年記念感謝献金の趣意書を作成。記念献金と故小林季子姉からの大口指定献金と元婦人会からの献金は、礼拝堂内装に当てられることを承認。内訳・壁、カーペット、扉、ステンドグラスのライト・礼拝堂の椅子・洗礼盤、聖書台。
・2008年度バザー委員長は千村雅信兄に決定。
・蔚山への訪問旅行予算見積りを承認。
・聖アンデレ教会将来計画。聖アンデレ教会
・教区会(3月30日)報告。木下司祭の問題に対して当教会の代議員森田委員が公開質問の動議を出したが、否決された。神学院問題は調査チームが調査報告を提出、代議員は閲覧できるが、コピーはできない。故鈴木宏尚兄の裁判は、神学院に鈴木文庫を設立することで和解決着。
・総務会は、教籍簿、信徒名簿、逝去者名簿ほかのデータ化を進めていく。
・オルター研修ツアーが5月24日に来訪する。
・宣教委員会報告。意見交換の経過報告。
・会計報告。3月末40万円弱の赤字である。

<5月>

・聖堂の改修。聖洗盤と聖書台設置に加え、床の段差改修、内壁、絨毯張替え、扉、ステンドグラス照明の改修を行う。
・120周年記念感謝献金は目標額を決めないで募金する。
・蔚山教会創立30周年記念訪問の旅。10月11日からの日程となる。
・草刈り機の購入を承認。
・会計報告。4月末約37万円の赤字である。

<6月>

・四川大地震、ミャンマー・サイクロン被害者救援募金。バザー献金を前倒し、各5万円をNCCおよび管区窓口経由で送金する。
・山手グループ信徒の集い。聖三一教会のファミリーパーティを合流させて開催する。
・名簿改訂。名簿の基準リストを作り、秋に新規名簿を発行の予定。
・神学院人権問題。司祭から調査チーム報告書閲覧結果の説明があった。
・蔚山訪問ツアー。10月11日出発、蔚山に1泊し、慶州に移動して1泊することに変更。
・聖堂およびホール使用。YWCA留学生の母親運動世田谷地域の会主催のチャリティコンサート開催(10月4日)を承認。世田谷宗教者懇話会(7月12日)開催承認。池ノ上商栄会還暦祝いの会(11月30日)開催承認。

<7月>

・6月16日拡大聖職者会(全員参加)が人権問題などについて開かれた。このことについて長谷川司祭から説明があった。
・今年のイースターヴィジル礼拝を牧師協議会で話し合った結果、山手G合同は難しいと感じた。来年は違った形を考えることになる。
・特定の不審者が教会に出入りする。不定期に教会で集会をする場合は、事前に牧師又は総務担当まで連絡をしてほしい。
・山手G信徒の集い(8月31日)開催。映画会、晩祷、ファミリーパーティーを行う。
・敬老会は9月14日に開催。現在対象年齢75歳以上の見直しを、司祭と行事委員で検討。
・逝去者記念礼拝は9月20日に行う。
・電気代節約のプロジェクトを立ち上げる。メンテナンスが担当。
・礼拝堂の音響(アンプ等)のセット終了。
・聖堂改修工事完了。改修理由の確認(祭壇の段差改修、アスベスト対策、絨毯の取り替え等)。
・聖堂改修費。115万円増加。内訳は建設時の施工不良が原因の追加工事72万円。その他(アスベスト、ベストリー等)の追加工事が37万円。
・11月22日に世田谷宗教者懇話会が三一教会で《平和のための祈祷》を予定している。
・会計報告。上半期の収支は123万円の赤字。

「少子・高齢化」・人口減少化論考

◆「少子・高齢化」―奇妙な熟語である。「少子化」と「高齢化」は別々の現象なのに、あたかも表裏一体であるかのような言葉としてまかり通っている。この言葉の発信源は恐らく官僚だろう。言葉の由来を突き詰めればカネである。増え続ける年寄りの年金や医療費を将来、負担させるために子供を増やせ、というせこい発想である。その昔の「産めよ殖やせよ」の戦時スローガンを連想する。少子化も高齢化も不可避の社会現象なら、それに合わせて国策のスキームを根本的に転換すべきではないか。これまでの経済優先とか公共事業優先などの発想を思い切って北欧諸国のように福祉優先に切り替えるべきではないのか。年寄りが老後を心配せず、悠々自適出来る世の中を望むのは、年寄りの贅沢なエゴなのだろうか。

◆少子化や人口減少の傾向は国力（主に経済力）が衰退する要因だから歯止めが必要だと識者は言う。この考えに水を差すようだが、この社会現象、大変結構なことだと考えている。かつて「貧乏人の子沢山」という諺があったが、少子化も人口減少も、世の中が豊かになるとともに民度も向上し、いわゆる成熟社会に向かうと必然的に起きる現象だという。フランスなど西欧社会がそうである。日本の人口は04年末の1億2780万人をピークに減少し始め、86年の6500万人台で底を打ってから増加に転ずるとある社会学者は予測している。日本の地勢からしてこの程度の人口規模が最適ではないか。ともあれこの人口減少は避けられない現象であるなら、これを阻止するのは"無駄な抵抗"ではないのか。基本的に子供を産むとか、産まない、といった事柄はあくまで個人レベルの問題であって、国家が決めることではない。国家権力で「独りっ子」政策という乱暴なことをやっている近くの独裁国家を反面教師とすべきではないか。

◆かつて日本は「狭い国土の上に人口密度が高く…」と嘆き国の政策が思い通りにならない理由を人口過剰のせいにしてきたではないか。その人口が減り始めると今度は大変だと騒ぎ出す。将来、働き手が減ると心配しているようだが、私は戦後この方、日本はずっと過剰労働力の国家だと見ている。もし人手が足りなくなれば元気を持て余している高齢者や外国人労働力を活用すれば充分賄うことが出来るのではないか。人生初めの幼稚園入学から大学進学、そして就職まで落伍せずに生きるために押し合いへし合いする戦後の競争社会はやはり正常ではない。人口過剰のなせるわざである。少子化も人口減少も自然にまかせ、前述のように漸次、その現象に合わせて国策スキームを福祉国家に方向転換させていくことが、すでにインフラストラクチャーが充実している日本のとる道ではないのかと私は考えている。（煩児）

牧師動静

6月　10日(火)聖書を読む会
　　12日(木)田瀬幸男兄、家庭聖餐式
　　13日(金)聖書を読む夕
　　16日(月)山手グループ牧師協議会
　　拡大聖職会(教区)
　　19日(木)鶴牧集会
　　21日(土)庭プロジェクト
7月　1日(火)聖書を読む会
　　4日(金)田瀬幸男兄見舞い(高井戸吉川内科)
　　6日(日)日野原重明先生講演会
　　8日(火)聖書を読む会
　　11日(金)聖書を読む夕
　　12日(土)会計監査(上半期)
　　世田谷宗教者懇話会
　　17日(木)鶴牧集会
　　20日(日)山手グループ教会協議会
　　23日(水)山手グループ牧師会
　　25日(金)生川又平兄病床聖餐
　　28日(月)田瀬幸男兄塗油式
　　聖アンデレ将来計画委員会
8月　1日(金)信徒宅訪問
　　3日(日)洗礼準備(柴田早智子姉)
　　5日(火)総務会
　　6日(水)山手牧師協議会
　　8日(金)田瀬幸男兄塗油式
　　13日(水)聖アンデレ将来計画
　　18日(月)田瀬幸男兄塗油式
　　26日(火)田瀬幸男兄逝去嘆願の祈り
　　28日(木)納棺式・通夜式
　　29日(金)葬送式
　　31日(日)山手グループ信徒の集い
9月　5日(金)清水建設担当者会合(森田兄同席)
　　10日(水)鶴牧集会
　　11日(木)山手牧師協議会

礼拝・集会案内

主日礼拝	
日曜日　聖餐式	午前八時三十分
夕の礼拝	午前十時三十分
	午後四時
週日の礼拝	
木曜日　聖餐式	午前十時三十分
教会暦の定める祝日	
聖餐式	午前十時三十分
ぶどうの木（こどもの礼拝）	
日曜日	午前九時三十分
集会	
壮年会・ELの会	毎月第一日曜日
BSA例会	毎月第三日曜日
中HIGH倶楽部	適宜
聖書を読む会	
火曜日	午前十時三十分
聖書を読む夕べ	
第二・第四金曜日	午後七時
代沢こども文庫	
第一・第三水曜日	午後一時